

---

# 文学的作品?

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
文学的作品？

【Nコード】  
N07280

【作者名】  
ごはんライス

【あらすじ】  
タイトルに深い意味はありません。。。何かの試作品。

**（前書き）**

前書きは特にありません。

葦山武司は、学校が終わってから、近くの喫茶店に入り、いつも通り、ホットを頼んだ。文庫に目を落とす。なかなか面白い。ウェイトレスのヤマコちゃんのかいお尻がちょっと気になる。

うーんと大きく伸びをした。

「ヤマコちゃん。セックスしてもいいかい」

「いいよ。二百ドルね」

「百ドルにしてくれないか」

「だめよ。いやならやめな」

「わかったよ」

武司はくちやくちやの百ドル紙幣を二枚、ヤマコに渡した。

「マスター。二階の部屋借りるね」

「いいよ」

武司とヤマコは階段をのぼり、二階へ行く。

四畳半の部屋があり、ここでセックスをする。

している最中、喫茶店の天井がみしみし揺れ、お客さんが、またセックスかと嘆く。

ヤマコはセックスが終わったあと、武司と店の外へ出た。だいぶ、暗い。

武司はヤマコのおでこにキスをした。ヤマコは恥ずかしい。

「ヤマコちゃん。レストランで晩御飯にしよう」

「いいわね」

二人でレストランに入る。

たくさんたくさん食べたあと、武司はウェ이터に尋ねた。

「二階使ってもいいかい？」

「いいですよ」

ヤマコと武司はレストランの階段を上り、二階へ行った。

八畳の部屋があり、そこでセックスをした。

レストランの天井がみしみし揺れ、客はまたセックスかと嘆いた。  
二人はセックスをし終え、一階のレジで会計したあと、店の外へ出た。

二人は腕を組んで歩く。

「ヤマコちゃん。寿司屋に行かないかい」

「よく食べるわねえ。いいわよ」

二人で寿司屋へ入った。

寿司をばかばか食べたあと、武司は大将に、二階使ってもいいかい、と尋ねた。大将はいいよと答えた。

二人で階段を上り、二階へ行った。

六畳の部屋の中央に布団が敷いてあり、二人はそこでセックスをした。

店の天井がみしみし揺れ、セックスしてやがるのかと客が不愉快に思った。大将も、近頃の若え奴はと嘆いている。

女将が二階にオレンジジュースを持って行ったら、まだセックスをしていた。

だいが夜遅かったので二人はそこで寝た。ヤマコが、シャワー浴びたいなと一階へ降り、大将にシャワー貸してくださいと聞いたら、大将に殴られた。

「な、なんで殴るのよ!」

「うるせえ!」

女将はヤマコの腹を蹴飛ばした。「うげ」

その頃、武司は夢を見ていた。

「あん! あん! あん!」

「おう! おう! おう!」

セックスをしている夢を見ていた。

その頃、ヤマコは客のいない店内で、大将と女将にボコボコにされて、肋骨を数本折っていた。



**（後書き）**

後書きは特にありません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0728o/>

---

文学的作品？

2010年10月8日22時53分発行